



## ひので映画大使最新版

## 第44回映画大使「かぐや姫の物語」

期 日 平成25年11月23日(土) ※公開初日！  
 場 所 イオンシネマ日の出

## 【作品紹介】

昔話「かぐや姫」を「火垂るの墓」や「おもひでぼろぼろ」で知られる監督・高畑勲が劇場長編アニメーションとして甦らせます。姫の犯した「罪と罰」とは！？

単なるセルアニメではなく、水彩画のような背景とキャラクターが本当に美しいです。

声の出演は、朝倉あき、高良健吾、地井武男、宮本信子、他の皆さん。



(C)2013 畑事務所・GNDHDDTK

## 映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

## ▶ 映画大使の「第一声！」

- ☆ まるで絵本が動いているよう！
- ☆ キャラクターと声がよく合っていました！
- ☆ すべての人に観て欲しい！！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

## ▶ 映画大使の「映画のツボ！」

## ■ Aさん

かぐや姫が本当に可愛らしかったですね。夢のような作品でした。昔話などを映画化すると、内容が変わったりする事がありますが、本筋は全く変わってなくて安心しました。全て手書きの、墨のようなやさしい線が、この物語にぴったり合っていましたね。素晴らしい作品を作ってくれて感謝です。

## ■ Bさん

綺麗な映画に感動しました。観ていて、現代版の女性の生き方という感じもしました。水彩画のような画面が素晴らしかったですね。本当の幸せにつながるものって、お金では買えないんですよね。何か忘れていたものを思い出しました。

## ■ Cさん

冒頭の可愛らしいシーンは微笑ましかったです。今の時代にも通ずる人の複雑さもありましたが、自分の意思を曲げない姫の姿がよかったですね。柔らかい絵で、夢の中にいるようでした。

## ■ Dさん

絵を1枚欲しいくらいの素晴らしさでした。声もみんなピッタリでしたが、この作品は、先に声を収録して、それに合わせて絵を描いたとの事で、橋爪功さんなど、キャラクターに顔が似ていましたよね。キャラクターの気持ちがよく表現されていましたね。私の後ろの席の方が号泣していました。心に温かい作品でしたね。

## ■ Eさん

絵本的な絵のタッチでしたが、よく動いていましたね。絵コンテ(撮影前に描かれるイラストで、映像の設計図と言えるもの)を作るのも時間がかかったそうです。内容は個人的には、子どもよりも大人向けの「かぐや姫」かなって思うシーンが多かったと思います。

#### ■Fさん

「生きる事」というのは、こういう事なんだって思いました。辛い時って、世の中に色がなくて、逃げたり、文句を言ったりしたくなりますが、そういう事があるからこそ、喜びが活きてくるんでしょうね。辛い事にも感謝しなくてはいけないなって、思いながら観ていました。四季の花とか、虫とか、草とかは本当に生きているような動きでした。四季の喜びを感じる絵で、実写とは違う良さがありましたね。とても見応えのある作品でした。

#### ■Gさん

かぐや姫が全力で走るシーンは筆の力強さが出ていましたね。全力で走っているんだ、っていうのが伝わる描き方でした。他のアニメーションにはない迫力、人の本性というのが伝わってきました。また、夢なのか現実なのか分からない描写が不思議な感じでした。主題歌が作品にマッチしていましたね。命や自然についても考えさせられました。

### 👉 作品の内容(印象に残ったシーンなど)

- ・声を先に録音する方式でしたので、地井武男さんは完成を観る事なく、亡くなりました。観させてあげたかった！きつと月から観てるでしょうね。。
- ・日本テレビの社長だった、製作の氏家齊一郎さんも亡くなってますよね。そういう方達の情熱が作品に結実しましたよね。
- ・高畑作品は、リアルな作風が多いですが、この作品はまさに真骨頂ですね。
- ・筆のタッチが上手く合っていて、赤ちゃんの描写などは、本当に赤ちゃんのやわらかい感じが伝わりました。また、激しいシーンでは太い線で描いてましたし、躍動感が更に増しますよね。シーンごとに線の太さや色の濃さを変えていて、効果的でした。
- ・外国の人が見たら、どう思うでしょうね。内容も絵も。
- ・声を先に録って、その声に合わせた骨格でキャラを作ると、声の人に似たキャラになるんでしょうね。実際の声の俳優さんと似たキャラがいたのはそのせい？
- ・製作に8年かかったのも分かりますね。
- ・久石譲さんの音楽も良かったですね。ラスト近くの音楽はユニークな感じでしたし、優しい音でしたね。
- ・ユニークなキャラクターも多く、笑いも豊富でした。
- ・お父さんとお母さんの、娘に対する愛情は、形は違っても、一緒でしたよね。
- ・ラストシーンがとても印象的です。
- ・すべての年齢の人に観て欲しいですね。
- ・月を見上げたくまりました！

### 👉 まとめ

日本で最古と言われ、また誰もが知っている昔話「かぐや姫」をスタジオジブリがアニメーション化しました。高畑勲監督とえば、「アルプスの少女ハイジ」や「火垂るの墓」などが知られ、リアル且つ自然な描写での作風が多いですが、今作ではそれらに加え、「画」の見せ方が凄まじく、水墨画や水墨画のような線で描かれたキャラクターと背景が一つになって、時に激しく、時に滑らかに動く様は、まるでスクリーンが「生きている」と錯覚するほどでした。そして、観ている私の心の中には、しっかりと姫の「心情」が刷り込まれており、これほどまでに、「画と演出」が一つになったアニメーションは、他には無いと思います。

皆が知っている「かぐや姫」のお話を、大胆な解釈で描き直している訳ではありません。しかし、何故か「初めて」出会った物語のような後味が残ります。大使の方達もそうでしたが、観た方によって様々な感想を持つ事でしょう。

素晴らしい作品です。劇場の大スクリーンで是非、ご覧ください！



関連ページ: [これまでのひので映画大使](#)

[▶ 関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: **教育委員会文化スポーツ課社会教育係**  
電話042-597-0511(内線541)

[◀ 前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町平井2780番地 電話 042-597-0511(代表)  
Copyright © 2011 Hinode Town All Rights Reserved.

[サイトマップ](#) | [このサイトについて](#)